

副田義也社会学作品集

第Ⅲ卷

老いとはなにか

東信堂

副田義也社会学作品集 刊行にあたって

社会学研究者として、私は、半世紀余を暮らしてきた。そのあいだ、ほぼ休みなく、かきつづけてきた作品の主要なものをつかつて、全十二巻の作品集をつくらうとしている。主題ごとに関心をひかれるままに作品を配置して、自作について気付いたことがある。二つの作品系列がある。

第一の系列は、死、老年と老化、子どもと若者、性愛、マス・カルチャーなどを主題とする。これらの作品群を執筆したさいの自らの心理をふりかえると、自己表現の性格が相対的につよかったのに気付かされる。それを否応なく認めさせられたのは、各論の巻頭に『死者とのつながり』『老いとはなにか』を置く心の動きが、その処置が終るまで、きわめて自然に感じられていたということによる。私は八十二歳、近づいてくる死と進んでゆく老いを自覚しつつ、日々を生きている。

第二の系列は、日本文化、教育、福祉、政治などを主題とする。これらの作品群を執筆したさいの主要な動機のひとつは、社会の変動する歴史を観察して、その変動の機序を理解したいということであった。ここでの歴史はせんじつめれば他者といってもよい。この系列のなかに『日本文化試論』や『教育勅語の社会史』を置いた。私は、敗戦を国民学校五年生でむかえ、大学の教員を生涯の仕事とした。私にとって、歴史と政治とは、ときに知恵のひらめきが織りこまれる愚行の連鎖であった。

しかし、あらためていうまでもないが、これらの系列の区別は絶対的なものではない。自己の表現は歴史の文脈をおしておこなわれ、歴史の理解は自己の形態を媒体としておこなわれる。社会学において、自己表現と歴史理解は相互浸透している。社会学者たちは、研究の現場において自己と歴史の双方にみいる二正面作戦をたたかわねばならない。社会学のこの半世紀あまりの変容をふまえて、新しい方法の出現として、社会学宣言と社会学革命を唱える。そこに社会学のほかの社会科学と区別される独自の性格がみいだされるといいきり、仕事はじめの挨拶とする。

目次

副田義也社会学作品集 刊行にあたって i

1 — 老いとマス・レジャ—…………… 3

第一章 老いとゴルフ…………… 4

著者の第一のノート 4

はじめに 5

事例研究 8

七つの命題 39

著者の第二のノート 48

注 48

第二章 老いと投書…………… 52

はじめに 52

1	投書数と掲載数	54
2	投書数と投書志向の経年比較	62
3	掲載された投書	68
おわりに		75

第三章 老年期の性行動および加齢にともなう性行動の変化 …………… 79

はじめに	79
1 性交の回数、オーガズム、満足感	87
2 性交の時間、前戯、寝かた	95
3 閉経の影響、不能、婚外交渉	104
おわりに	110
注	113

第四章 老年期の性行動について——英語文献による…………… 115

はじめに	115
1 加齢の影響か、世代の習慣か	116
2 性的な関心と興味などの減退	120
3 キンゼイによる二つの命題とその修正	125
おわりに	130
注	131

2 — 老いの本質……… 133

第五章 老いとはなにか…………… 134

- ラベルとしての老人…………… 134
- 世論、制度と老人…………… 135
- 老化（エイジング）の三次元…………… 137
- 老人、老化、老性自覚…………… 138
- エイジレス・セルフ…………… 140

第六章 老年期——精神と肉体…………… 142

- 1 はじめに…………… 142
- 2 老年の肖像…………… 144
- 3 恋に落ちる…………… 147
- 4 美の位置づけ…………… 150
- 5 精神の敗北…………… 153
- 6 対立図式…………… 156
- 7 もうひとつの対立図式…………… 159
- 8 おわりに…………… 162

第七章 ある老年夫妻の生活——M氏とN夫人のケース…………… 166

A	一九七九年二月二日(日曜日)	166
B	引退前後(1)	170
C	引退前後(2)	174
D	家計と健康	178
E	子どもと子ども家族	181
F	意識の問題	185

第八章 「いじわるばあさん」論……………190

1	いじわるの生理学	190
2	いじわるの心理学	194
3	いじわるの社会学	196

3 — 老いの歴史社会学……………201

第九章 権利主体としての老年範疇の形成——日本年金制度史研究ノート……………202

はじめに	202
1 恩給制度の政治社会学	203
注	225
2 恩給制度の社会史	226

3	注	国民皆年金体制の歴史社会学	244
注	264		246
〔補論〕		社会保障制度における「下向普及」と「上向普及」	267
第一〇章		排除客体としての老年範疇の形成——隠居制度の社会史研究ノート	278
はじめに			278
注	279		
1		明治維新と隠居制度	279
注	306		
2		個人、家族、社会および国家	308
注	334		
3		隠居制度の理念形態	337
注	370		
4		隠居制度の現実形態	371
注	409		
あとがき			413
著者紹介			417

事項索引
人名索引

426 424

装幀：佐藤和泉子

著者

副田 義也 (そえだ よしや)

老いとはなにか―副田義也社会学作品集第Ⅲ巻―

2017 年 5 月 20 日 初 版第 1 刷発行

(検印省略)

* 定価はカバーに表示してあります

著者 © 副田義也 発行者 下田勝司 印刷・製本 中央精版印刷

東京都文京区向丘 1-20-6 郵便振替 00110-6-37828

〒 113-0023 TEL 03-3818-5521 (代) FAX 03-3818-5514

E-Mail tk203444@fsinet.or.jp URL <http://www.toshindo-pub.com/>

発 行 所
株式 東 信 堂
会社

Published by TOSHINDO PUBLISHING CO.,LTD.

1-20-6, Mukougaoka, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-0023, Japan

ISBN978-4-7989-1432-9 C3336 Copyright©SOEDA, Yoshiya